



**freeX**  
**Tiger**  
練習生の2機目として選んで欲しい

Text: Kaz Nishigaya

オリジナリティーの強いカラーデザインは、オーナーの心を揺さぶることだろう



**FreeXが復活!**

FreeXといえば、DHVのテストパイロットだった、クリストフ・キッシュがデザイナーとして1995年に興したパラグライダーメーカーだ。フラットな平面型、矩形翼、楕円形のエアインテーク、翼端に誘導抗力を逃がす翼端構造が特徴のパラグライダーで一世を風靡した。(写真参照)そして、2004年夏に経営陣が一新して新生FreeXとしてリスタートした。その際、弊誌に日本の代理店を探している連絡が入り、縁あって現輸入代理店(有限会社さんじゅう)で扱うことになった。

FreeXのラインナップは、DHV1のマックス、これはスクール練習機。DHV1-2として、セーラムと今回試乗したタイガーがある。2006年にリリースしたセーラムは全体におとなしい味付けとなっているのに対して、2007年登場のタイガーはアグレ

ッシブな仕上がりとなっている。(とはいえこの二つの比較であって、タイガーも十分に安定している。)両者ともレジャーという位置付けで日本では2機目として、B級生からP級練習生まで幅広いユーザーに対応している。そしてフラッグシップモデルとしては、DHV2のパクシンが用意されている。クロスカントリーフライト向きとFreeXがいうこのパラグライダーは、旧名アーカンの2007年モデルだ。



FreeXの特徴が表れている、「フランチック」

新生FreeXは、ドイツに拠点をもち、DHVの認可を基本としてラインナップを充実させ、DHV2-3やコンペ機をラインナップしていない。地道なビジネス展開を目指しているメーカーといえる。

**3つ名前を持つタイガー**

FreeXでは、このパラグライダーに「Tiger」:タイガー(虎)、「Cougar」:クーガー(ヒョウ)そして「Lion」:ライオンという3つの名前を名付けて使い分けしている。タイガーは、自由滑空用のパラグライダー。クーガーはタイガーのライトモデル、山岳フライト用。タイガーをベースモデルとして、生地に27g/m<sup>2</sup>のスカイテックス社の中で一番軽い生地を使うことで全体としてタイガーの半分近く軽量化に成功している。そしてライオンは、タイガーからモータ専用のライザーに変更することで、モーターパラグライダー専用機として使うことができる。



体重移動を入れることで、よりタイトな旋回が実現する。



翼端折りは、Aラインのうち翼端に伸びるラインを手繰りよせて行う。たくさん引き込まないと、翼面積を大幅に減少できないが、操作は慎重に。



立ち上げは、スムーズだ。無理に引かずに、立ち上がろうとする翼に合わせるのがコツだ。

## 構造

タイガーは、S・M・Lの3つのサイズが用意されていて、装備重量で65kgから125kgまでが適正重量だ。軽めで乗ることはあまりお薦めできないので裸体重で、50kgから110kg程度の人が選択できる。体の小さい人は、XSをラインナップしている機体を選んでほしい。安全基準としては、タイガーは全サイズすべてDHV1-2を取得している。ライザーは、4本ライザーを採用していて、Aライザーから分岐した翼端へのラインは、アクセルを踏んだとき、Aライザーと比べると1/2の割合で引かれる構造が取り入れられている。これにより、



UPが使っているBTSSシステムを導入。

アクセルを踏んだときの翼端の潰れを抑制している。また、翼端潰れをするときの翼端にのびるラインが掴みやすくなる。Bライザーは少し遅れて同じ割合で引かれ始め、CはBの1/2、DはCの1/2で引かれていく。

Vリブは、A、B、Cインナーリブとして形成され、AとDラインには、スパン方向にテープのベルトが施されていてテンションの分散と剛性を強めている。エアーインテークはオープンタイプで、翼端のリブ以外はすべて開いている。エアーインテークの形は逆かまぼこ型で、旧FreeXを引き継いでいて、メーカーのルーツを感じることができる。生地はボルシェマリーンスカイテックの45g/m<sup>2</sup>を使っている。多くのメーカーが採用している信頼の高いものだ。

ラインは、トップラインにダイニーマ、ボトムラインにケブラーを用い伸縮のバランスをとっている。いずれも被覆付きのもので色分けしてティークオフの時さばき易いのは便利だ。ブレークコードの取り出し点は、UP自慢のBTSSシステムと同じものを使っている。

## ライズアップ&ティークオフ

実測で5.2投影で3.8のタイガーのアスペクトは、このクラスとしては平均的もしくは少し高めかもしれない。アスペクトが高いとどんな効用があるかという、有害抗力が減少し性能が高くなるといわれている。滑空性については後で述べるとして、アスペクトが高いとティークオフではどんな問題が起きるかという、立ち上げ時の左右の操作のバランスが崩れやすい。タイガーの場合どうかという、ブレークコードの引き代が、翼の中央よりに集中しているからなのだろう、心配するようなアンバランスは気にならずに素直に上がってくる。逆にアスペクトが低いグライダーだと、コード方向に生地がもたついて立ち上げがなかなか終了しない「鈍くささ」があるが、このタイガーの場合キビキビと上がってきてよいフィーリングだ。エアーインテークの形は逆かまぼこ型なので、空気の入りに貢献している。キャンピーは頭上で簡単に維持できるので、ラインチェックの余裕があり練習生も慌てることは無いだろう。



上空からはいつも「虎」が見守ってくれている。このマークは注文時に外すこともできる。



オーソドックスな4本ライザー、アクセルシステムも



ブルー・ホワイト



ブルー・シルバー

## FreeX TIGER

サイズ	S	M	L
セル数	53	53	53
翼面積/投影(m <sup>2</sup> )	26.2	28.5	30.8
翼面積/実測(m <sup>2</sup> )	22.8	24.7	26.8
アスペクト/投影	3.8	3.8	3.8
アスペクト/実測	5.2	5.2	5.2
スターティングウエイト(kg)	65-85	85-105	80-95
グライダー重量(kg)	6.0	6.2	7.2
DHV/AFNOR	DHV1-2	DHV1-2	DHV1-2
標準小売価格(税込)	¥466,000	¥474,000	¥478,000

■問い合わせ先: 有限会社さんじゅう 商品管理  
〒327-0003 栃木県佐野市大橋町3229-10 A-102  
TEL: 0283-21-5255 FAX: 0283-21-8570  
E-mail: info@sanjuu.com URL: http://www.sanjuu.com

## フライト

ティークオフしてリフト帯でリッジソアリングしてみる。浮きが良い。試乗したのは、Mサイズ。推奨する装備重量は85~105kgの範囲なので、僕の場合98kg少し重めでフライトしたことになる。軽めではない。サーマルに当たったので回してみると素直に回る。体重移動を意識しなくてもブレーク操作でロールがかかる。クイックに回すために体重移動を入れてみると旋回はさらにクイックになる。ブレークコードの重さは常用範囲で軽く、30cmあたりから先は重くなる。重くなくてもさらに20cmは引くことができる。腰の位置まで引いた時に、ストールに入った。速度は22km/hを記録した。ストールするまで引けとは言わないが、どの位引けるかは自分のグライダー限界を知る意味でも確認してほしい。腕のストロークは人それぞれで、力を入れやすい範囲もパイロットによって異なる。「キビキビとコントロールしたいなら少し短めでもいいだろう。ただ、ブレークコードの長さ調整は、3~5cmの長短を数回フライトをして十分感覚を確かめて決めるのが基本だ。解らなかつたらインストラクターに聞くのが良い。

安心感に守られつつ十二分に飛ぶグライダーなので、そう焦らずにブレークコードの長さにこだわる必要は無いだろう。」ニュートラルでの対気スピードは36km/h(エアコテック・クロスカントリーレーナーでの測定)このクラスでの平均的なスピードだ。アクセルは重めの設定で、フルアクセルまで踏んでも安定している。スピードは52km/hを記録した。

## セーフティー

タイガーは、3サイズ揃って昨年の3月にDHVのテストに合格している。テスト結果はそれぞれ微妙に異なっているが、DHV1で通過している項目は少ないのでDHV1のグライダーから乗り換えたら人からは、じゃじゃ馬に感じるかもしれない。1-2項目が多いということは、不安定要素があるということ。とはいえ、1-2の中で取まっているのだからそんなに神経質になることはない。実際のフライトでは適切な回復動作を身につけて実行して欲しい。実際DHVと同様のテストを試みてみたが、翼は粘りがあり、簡単に潰れない。ピッチの安定性もある。

## 長く飛ぶ2機目として選択

DHV1-2でありながら、クロスカントリーレベルのフライトを可能にしているFreeXの自信作タイガーに乗ってみた。FreeXでは、「Top-end DHV1-2」と表現している。実際にクロスカントリーパフォーマンスをDHV1-2という安全性と安定性の上に構成しているこの翼はある意味、高性能機ともいえる。

1機目練習機からの乗り換えを可能にする安定感安心感を持ち合わせながら、P証レベルのソアリングだけでなくクロスカントリー飛行もそつなくこなすタイガーは、独特の雰囲気を持ったパラグライダーだ。上級機という位置づけでもないのに、いつも高いところを、そして長い時間飛んでいるのはこのタイガーだったりする。それはタイガーをマイグライダーとするオーナーの実力なのか、タイガーがそういう飛びをさせてくれるのか、実に不思議なパラグライダーだ。FreeXの独特のカラーデザインには、好き嫌いがあってもいいが、カラフルでフライトを楽しくしてくれる。性能、性質、カラーデザインともに上手くなりたいたいという初級者がステップアップのために選んでほしいパラグライダーのひとつだ。